

西小は大きな家族

Family

～校長のたわいもない独り言～

平成 30 年 11 月 26 日 (月) No.40

発行人

今年は暖冬だという。えーっ、スキ
ーだめかなあ？(T_T)の川崎先生

◇西小学校公開研究会 11/22◇

南アルプス市内外から総勢約 130 名の参加者が西小学校に集まった。中央市、甲斐市、甲府市、そして遠くは身延町教育委員会からもわざわざ参加してくれたのだ。この 130 名が授業公開をした 4 年、5 年教室を参観したのだから、単純に 1 クラス 65 名。それはそれは教室は目いっぱい。子どもたちの姿を見るためには、大勢の人をかき分けて進まなければならなかった。

これだけの人数だと大人とて緊張する。しかしながら、授業者の河西 t も橋本 t も、まったく緊張の様子もなく、いつもと変わらぬように授業を進めていく。なかなか肝が据わっている。

それ以上にびっくりなのは、これだけ多くの視線の中であっても、物おじせず授業に参加し、いつもと変わらず、いやいつも以上にしっかりと授業に参加した 4、5 年生だ。緊張して言いたいことが言えなくなったり、恥ずかしくて声が小さくなったりしても不思議ではないが、少なくとも川崎の目には普段と何一つ変わらない、しっかり授業に集中して、どんどん意見を言い、目いっぱい考える子どもたちだった。これは参観した先生方がみんな感心していた。“これが西小”であることが多くの先生方の目に焼き付いたに違いない。

授業が終わると研究会が行われる。4 年生は、伊奈ヶ湖に関わって総合・国語・社会が融合した西小だからこそできる素晴らしい授業であった。5 年生は、他の学校ではあまり行われることのない、応用・発展の問題にチャレンジしたこれまた素晴らしい授業であった。

研究会が終わる。校長室で講師の早稲田大学の田中教授が開口一番“全国レベル”の授業だと言ひ、教育委員会の指導助言者が“このような授業を他の学校でもぜひやってほしい”と手放しでほめちぎる（ちょっと鼻高々“えっへんぐ〜”）。

もちろんここに至るまでには、研究主任の築野 t が素晴らしいリーダーシップを発揮したからであるし、久保島教頭が微に入り細に入り準備をしてくれ、そしてすべての先生方が気持ちよく協力してくれたおかげである事は言うまでもない。“西小は大きな家族”は、教師間にも十分に言えることである。全員が隙間を埋めるように気を遣ひ、その支えの上に成し遂げられた大きな成果が今日という日であった。何とも疲れが心地よい。

◇行ってきました高尾の夜祭り 11/22◇

研究会が終われば高尾の夜祭りだ。西小の 5、6 年生がそれぞれ巫女の舞や狐の舞で参加する。これはもう見るしかない。今回は教頭 t、時田 t、倉崎 t、飯野 t、杉山 t、川口 t も見学に向かった。川崎が到着したのが 7 時ちょっと前。もう渋滞だ。その後は 1 時間ぐらいの渋滞が出来たという。なんとも人気のある山奥の限界集落の不思議な祭りだ。

やっぱり巫女の舞は祭りを神秘的に盛り上げる。参加者の多くが足を止めて巫女の舞に見入る。これを見たくて県外から来る人も多いと聞く。そして 6 年男子が狐に扮して餅を投げる狐の舞だ。ここが一番祭りが盛り上がる。境内では大人も子供も我先と必死になって餅を捨てる。狐は人を化かすようにフェイントを入れながら笑いを誘う。なんとも華やかでユニークな瞬間だ。

山奥にひっそりとたたずむ神社に、この日ばかりは夜遅くまで灯りが途絶えることはない。上市の JA ではうどん店を出し、MTB 愛好会はジャムやワインを紹介し、平岡夢の会はトン汁と、多くの個性的な出店が増えてきたのも、祭りが盛り上がる大きな要素かもしれない。また旧道を歩いて登ってくる提灯行列があったりと、多くの人の手で支えられている祭りでもある。

次の日の 23 日午前中も祭りがある。ここに藤田 t とお母様が。境内は西小保護者の多い事(^_^)。でもそれだけに狐の餅は拾い放題。夜は 0 個だった川崎もたくさん拾えて満足満足(^)v。